

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人山形大学

1 全体評価

山形大学は、「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を使命とし、学生教育を中心とする大学創り、豊かな人間性と高い専門性の育成、「知」の創造、地域創生及び国際社会との連携、不断の自己改革という5つの基本理念に沿って、教育、研究及び地域貢献に全力で取り組み、国際化に対応しながら、地域変革のエンジンとして、キラリと光る存在感のある大学を目指している。第3期中期目標期間においては、地域活性化の中核になりつつ、特定の分野で世界ないし全国を牽引する教育研究拠点となるため、実践力と人間力を備えた人材の育成、地域の課題を解決し世界をリードする研究の推進、産業界等との連携による地域変革の牽引等をビジョンとして基本的な目標に掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、インターンシップの推進に向けて学生・企業が参加・受け入れをしやすいことを目的として、インターンシップのプログラム見直しを行うなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 個々の授業科目のレベルを4段階（I:Introductory、R:Reinforce/Practice、M:Mastery、A:Assess）で示す米国のカリキュラム・マッピングの手法を新たに取り入れたカリキュラム・チェックリストに基づき、理事特別補佐と統括教育ディレクター会議が連携し、各教育プログラムの教育課程の編成及び授業科目の内容とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーとの整合性を確保するため、点検・評価を行っている。（ユニット「基盤教育改革と質保証の強化による実践力と人間力を備えた人材の育成」に関する取組）
- ゲノム病院と地域コホート研究を統合させた研究の推進を図ることを目的として、山形県コホート研究で得られた知見を基に、平成30年6月から、病気のなりやすさなど患者の遺伝子情報をデータベース化し、治療などに役立てる「山形バイオバンク」（患者から生体試料を集積する体制）を全国に先駆けて開始し、患者に合わせたオーダーメイド医療を行う体制を構築している。研究用血液への患者同意率は7割を超えており、血液の採取数は年度末までで2,000件を超えている。（ユニット「先進的な研究成果の社会実装と世界最高水準医療の提供による地域変革の牽引」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善		○				
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載18事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 労働生産性の向上

「AA（アドミニストレイティブ・アシスタント：管理運営等の業務補助に従事する学生）活用推進プロジェクト」を実施し、学生の需要と事務側の需要をマッチングさせ柔軟かつ弾力的にAAを活用できる体制を構築している。その結果、AAと事務職員が協働し、事務職員の負担を約1,000時間軽減している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでおり一定の注目事項がある

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、一定以上の注目すべき点があること等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 財務会計関係規則等の整備

「効率的・効果的な財務運営」に資するために、財務会計関係規則・マニュアルを整備し、経営を意識した規則に改定することを目的として、複数の規程等を財務会計事務取扱要領として一本化し併せて統一した実務基準等の整備を行っている。規則等が統一されたことにより会計事務間の関係が明確になり、財務会計の事務改善、事務合理化等の環境整備が図られている。

○ 収入増に向けた取組

「新たな収入の増を考えるプロジェクトチーム」が平成27年度に提言した取組を推進し、学術指導契約の徹底化、ネーミングライツの導入、間接経費収入の増加に向けた「国立大学法人山形大学における間接経費取扱規程」の制定・施行を実施したこと等により、約1億3,000万円の収入増を達成している。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 機能的で魅力あるキャンパスづくりの推進

建築後52年経過した老朽化の著しい既存の男子寮に代えて、留学生や女子学生も入寮対象とした250戸の新学生寮を民間の資金やノウハウを活用したPPP方式により整備している。また、施設整備に当たり、学生に良好な勉学と生活の環境を提供するため、完全個室を図るなど様々な学生のニーズを取り入れたほか、施設整備の財源の一部に目的積立金を活用したことで寮費が安価に抑えられ、入居者の負担を軽減している。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について課題がある。

○ 情報セキュリティマネジメント上の課題

平成30年度に同種のインシデントを繰り返して発生させているが、再発防止策は注意喚起と教育の実施にとどまり、技術的対策を実施できておらず、必要な情報セキュリティ対策が講じられているとは言えないことから、再発防止に向けた組織的な取組をさらに実施することが望まれる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ キャリア教育の成果

インターンシップの推進に向け、学生・企業が参加・受け入れをしやすいことを目的として、インターンシップのプログラム見直しや、受入先を地元の中小企業に絞り、「インターンシップ・プログラム」の基本フォーマットを作成する等の取組を行った結果、平成30年度に文部科学省が実施した「大学等におけるインターンシップ表彰制度」において、低学年を対象にした短期インターンシップ授業である「フィールドワーカー 山形の企業の魅力（プレ・インターンシップ）」の取組が、高く評価され、全国最優秀賞を受賞（申請大学等190校の内、最優秀賞1校）している。

○ 若手研究者の育成

「科研費ステップアップ支援制度」「科研費に関する若手教員助成制度」により、若手教員に対して支援を行っている。また、新規に採用した若手研究者についても文部科学省卓越研究員事業の研究環境整備費を活用し研究費の支援を行い、若手教員等の研究環境整備を行っている。

○ 基盤力テスト・IR指標等の分析に基づく学生支援

学生の態度・習慣や傾向をもとに平成29年度に抽出した学生（44名）を事前にフィルタリングし、必修科目である「スタートアップセミナー」において連続欠席、かつ課題未提出の学生（10名）に対する早期指導を試行的に実施した結果、対象学生（10名）全員の当該科目における出欠又は課題提出に関連した学修態度の改善が見られ、対象者全員が単位を修得している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ ゲノム医療の推進

ゲノム病院と地域コホート研究を統合させた研究の推進を図ることを目的に、全国に先駆けて平成30年6月から「山形バイオバンク」（患者から生体試料を集積する体制）の運用を開始している。研究用血液への患者同意率は7割を超えており、血液の採取数は年度末までに2,000件を超えるなど、ゲノム医療を推進している。

（診療面）

○ 地域連携による医療提供体制の強化

地域の医療機関の連携による周産期医療提供体制の強化を目的として、平成31年1月から山形県村山地域をモデル地域として、大学がイニシアチブをとり「山形県産科セミナーオープンシステム」の運用を開始している。

13 山形大学

(運営面)

○ 蔵王協議会を通じた地域医療向上に向けた取組の推進

大学と関連病院で構成する「蔵王協議会」において、地域医療提供体制の構築及び機能強化のために、協議会内に新たに「山形地域医療構想委員会」及び「山形医師適正配置委員会」を設置し、大学の枠を超えた全県的な地域医療向上の取組を推進している。